

岡病防第4号
令和4年5月25日

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

令和4年度病虫害発生予報第3号

令和4年5月25日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水 稲	葉いもち	並	やや多
	ヒメトビウンカ	—	少
	ツマグロヨコバイ	—	少
	ニカメイガ	—	並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病	—	並
	黒星病	並	並
	せん孔細菌病	—	やや少
	モモハモグリガ	遅	少
	ナシヒメシンクイ	—	並
カメムシ類	—	やや少	
ブドウ	べと病	並	やや多
	うどんこ病	並	やや少
	灰色かび病	並	やや多
	フタテンヒメヨコバイ	遅	少
トマト	疫病	並	並
	灰色かび病	—	並
	葉かび病	—	やや多
キュウリ	べと病	やや遅	やや少
	褐斑病	—	やや多
	炭疽病	—	やや多
ダイコン	軟腐病	並	並
	コナガ	—	少
野菜全般	アブラムシ類	—	並
	モザイク病	—	並
	ミナミキイロアザミウマ	—	並
キ ク	白さび病	やや遅	並
	ナミハダニ	並	並

1. 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. 中北部地帯の田植時期、生育概況は概ね平年並である。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いとされており、降水量が多い場合、発生を助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 育苗箱施用剤の残効は40~60日とされており、5月中旬までの田植えでは6月下旬頃から効果が低下すると考えられるので、その後病斑がみられる場合は薬剤を散布する。

(2) ヒメトビウンカ

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における5月のヒメトビウンカ成幼虫の発生量は3頭であり、平年(81.1頭)より少なかった。

(3) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代成虫) 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場において5月のツマグロヨコバイ成幼虫の発生量は1頭であり、平年(10.1頭)より少なかった。

防除上の参考事項

ア. ツマグロヨコバイが媒介する萎縮病は、近年少発生が続いている。

(4) ニカメイガ(越冬世代成虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月4半旬までに平年同様誘殺を認めていない。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月17、18日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

防除上の参考事項

ア. 発生圃場では、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月6日の巡回調査によると、花腐れの発生圃場率は3.6%（平年15.0%）で平年より少なかった。5月20日の巡回調査における芽枯れ、枝病斑の発生量は平年並で、幼果への感染量は平年並と考えられる。

イ. 5月19日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は平年並で推移している。

イ. 5月20日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年よりやや多かった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、発病葉の発生圃場率は3.6%で平年（19.6%）より少なかった。

イ. 5月19日の季節予報（1か月予報）によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

ウ. 県南部の7月下旬のモモせん孔細菌病の発生と関係の高い「昨年の8月中旬の発生圃場数」（岡山県病害虫防除所調査）は少ない。

(4) モモハモグリガ（第2世代幼虫）

予報内容

発生時期 遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、5月23日まで誘殺を認めておらず、平年（5月16日）より遅い。

イ. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（1.5頭）より少なかった。

ウ. 5月20日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年（5.7%）より低かった。

エ. 5月19日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～4半旬の誘殺数は0頭で、平年（2.0頭）より少ないが、越冬世代成虫の誘殺数（4月）は67頭で平年（25.7頭）より多かった。

イ. 5月20日の巡回調査によると、心折れの発生圃場率は3.6%で平年（7.1%）より少なかった。

ウ. 5月19日の季節予報（1か月予報）によると、6月の気温はほぼ平年並、降水

量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は1頭で、平年(27.5頭)より少なく、ツヤアオカメムシの誘殺数は1頭で平年(16.0頭)より少なかった。フェロモントラップでのチャバネアオカメムシ誘殺数は80頭で、平年(238.1頭)より少なかった。

イ. 5月20日の巡回調査によると、発生圃場率は14.3%で平年(14.7%)並であった。

ウ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 県予察圃場のピオーネ、ネオマスカットにおいて、平年と同様に5月下旬まで発生を認めていない。

ウ. 5月20日の巡回調査によると、平年同様発生を認めなかった。

エ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 5月の日照時間は平年並であり、本病の発生を助長する条件ではない。

ウ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 並 発生量 やや多

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育は平年並で推移している。

イ. 5月20日の巡回調査によると、発病花穂の発生圃場率は27.3%で平年(2.7%)より高かったものの、発生程度は軽微であった。

ウ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 遅 発生量 少

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、被害発生圃場率は0%で、平年(6.1%)より低かった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並、降水

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではアミスター20フロアブル、トップジンM水和剤、カンタスドライフロアブル、ゲッター水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイセン水和剤、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 5月19、20日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平成(0%)より高かった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平成並、降水量は平成並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 **並** 発生量 **並**

予報の根拠

ア. 5月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平成(10.0%)よりやや低かった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平成並、降水量は平成並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(2) コナガ

予報内容

発生量 **少**

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1~4半旬のフェロモントラップへの誘殺数は16頭で、平成(47.4頭)より少なかった。

イ. 5月20日の巡回調査では、発生圃場率は0%で平成(24.5%)より低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 **アブラムシ類 並**
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1~4半旬の黄色水盤への飛来数は523頭で、平成(487.5頭)並であった。

イ. 5月19、20日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平成並であった。モザイク病の発生は認められず、発生圃場率は平成(キュウリ:3.3%、トマト:0%)並であった。

ウ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平成並、降水量は平成並か多いとされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 5月20日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平成並であった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平成並とされ

ており、本虫の発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生時期	やや遅	発生量	並
------	-----	-----	---

予報の根拠

ア. 5月19、20日の巡回調査では発生を認めず、平年(4.3%)並であった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並、降水量は平年並か多いとされており、発生をやや助長する条件となる。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生時期	並	発生量	並
------	---	-----	---

予報の根拠

ア. 5月19、20日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(0%)並であった。

イ. 5月19日の季節予報(1か月予報)によると、6月の気温はほぼ平年並とされており、本虫の発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/>です。

